

日本原子力学会 第 127 回倫理委員会  
議事録

1. 日 時：2021 年 10 月 7 日（火）9:00～12:00
2. 場 所：Web 会議
3. 出席者：大場委員長、福家副委員長、伊藤委員、大家委員、金谷委員、佐藤委員、手柴委員、  
中野委員、中村委員（委員 13 名中 9 名出席）  
中山特別委員
4. 資 料：  
倫 127-1 前回議事録（案）  
倫 127-2 倫理委員会 2021 年秋の大会 企画セッション関係資料  
倫 127-3-1 倫理委員会活動計画  
倫 127-3-2 倫理委員会役割分担表  
倫 127-4 20 年企画アトモス寄稿原稿  
倫 127-5 倫理委員会 2022 年春の年会の企画セッションについて  
倫 127-6 研究機関の安全文化について

+

5. 議事概要：

(1) 前回議事録について

大場委員長から資料 127-1 に基づき説明があり、役割分担の学振に関する記載は、活動計画の項に移動し、一部の誤記修正を行うことで承認された。

(2) 新委員について

大場委員長から委員として大家知子氏が理事会で承認され、本日より委員会に参加される旨の説明があった。

(3) 秋の年会 企画セッションについて

伊藤委員より資料 127-2 により、企画セッションの概要について説明があり、以下の議論があった。

- ・企画セッションの結果をどのように HP にあげるかは、今後検討を進めていく。
- ・ZOOM の録画が会社の回線不良によりうまくできなかったとの問題提起があり、複数での録画が必要との問題提起があった。学会事務局でも録画し公開しているので、今回はこの利用も検討する。
- ・質問のチャットを参加者全員に公開すべきという参加者のコメントがあったが、今回は出された質問の順に回答するよりも質問をまとめて回答する方法が効率よく議論を深められるということで座長が取りまとめる方法とした。次回はどのような会議形式になるかを踏まえて方法を検討する。
- ・セッションのアンケートでは安全文化の醸成度の指標に関する質問があったので議論した。

安全文化に 100 点があるわけではなく、どこまで達成したかという指標はないという意見が多く、その時々指標の相対的な傾向を見て、何か問題が発生する可能性を検知することが重要ではないかとの示唆があった。大場委員長が学会誌への 20 周年企画記事を投稿する際に、本件に関する見解を記述することも検討する。

#### (4) 活動計画および役割分担について

福家副委員長から資料 127-3-1、127-3-2 に基づき説明があり、議論を行った。

確認事項と主な議論は以下のとおり。

##### <活動計画>

- ・ 前回の議事録にて確認した事項を反映して修正した。
- ・ 中野委員より、技術倫理協議会は 10/4 に開催されており、次回は 11/5 の予定との報告があり、次回の資料に反映する。

##### <役割分担>

- ・ 前回からの修正点として、次回の春の年会企画セッションの主担当を手柴委員、20 周年シンポの主担当を福家副委員長とし、その開催時期は学会誌の連載投稿が終了する 2022 年秋頃とするとの説明があった。
- ・ シンポを 9 月とする場合には大会終了の次の日とした方が良いとの意見が出され、日程の検討にあたって配慮することとなった。また、推進体制については内容を具体化しつつ拡充を図っていくこととした。
- ・ 分担表に新任の大家委員を追加し、退任委員は削除することとする。

##### <20 周年企画>

- ・ アトモス連載記事について、資料 127-4 にて福家副委員長より寄稿記事の集約状況について紹介があった。
- ・ 6 回目以降は学会外からの寄稿を求めることとしており、各委員が推薦者とその理由を福家副委員長に連絡することとなった。

#### (5) 2022 年春の年会企画セッションについて

手柴委員より資料 127-5 に基づき説明があり、今後のスケジュール等について説明があった。

- ・ 10 月末を目途にテーマ選定する必要がある。
- ・ テーマ案として、東電の核セキュリティ問題を対象としたいとの意見が多かったが、核セキュリティそのものを問題とするのではなく、業務上、閉鎖的にならざるを得ない組織における安全文化のあり方等について検討する方針とした。

#### (6) 研究機関の安全文化について

資料 127-6 にて伊藤委員より、これまでのアンケート取得やその分析結果について紹介があり、委員会で共有した。

- ・ JAEA は学会員の 1/3 を占めているが、研究機関というものの研究職は全体の 20% という特徴がある。また、多種多様な研究部門が存在しており、各職場でも安全文化のとらえ方は様々である。

- ・このような背景の中で、今後どのように進めていくかを検討し、次回の委員会にて報告してもらうこととなった。なお、検討には大家委員にも協力してもらうこととなった。

(7) 東電核セキュリティ事案への倫理委員会としての対応方針について

検討のはじめとして、大場委員長から別途、報告書の概要について説明してもらうこととした。

この説明を受けて、倫理的にどのような問題点があったかを倫理規程と照らし合わせながら検討し、意見表明の有無について議論していく方針とした。

6. 次 回：11月下旬頃の開催を目途に、別途調整することとした。

以上